

とがち帯広FC

静岡市長杯

第40回清水チャンピオンズカップ報告書

大会結果

☆予選リーグ

第1試合 とがち・帯広FC 1-0 新座片山FC少年団（埼玉県）

第2試合 とがち・帯広FC 0-1 白山FCボーイズ（石川県）

第3試合 とがち・帯広FC 1-0 奈良スクデッドFC（奈良都）

2勝1敗で2位トーナメントへ

☆2位トーナメント

1回戦 とがち・帯広FC 4-1 多摩平JrSC（東京都）

準決勝 とがち・帯広FC 0-0（PK3-4） アストロンFC（福島県）

決勝戦 とがち・帯広FC 1-1（PK2-3） 長野県選抜（長野県）

参加32チーム中 第12位

2012. 12. 22~24

清水ナショナルトレーニングセンター他

報告者 十勝少年サッカー連盟技術委員長 喜多 進

貴重な経験、今後の大きな財産に！

十勝少年サッカー連盟技術委員長 喜多 進

この清水チャンピオンズカップは、全国大会のベスト4以上のチーム、各県サッカー協会主催の大会（4県以上の参加）で優勝したチームなどに参加資格が与えられる名誉と権威のある大会です。今回の大会に参加したチームの中にも、県選抜チームあり、地区トレセンチームあり、強豪クラブチームありと、試合内容もまさしくチャンピオンズカップという名にふさわしいたいへんレベルの高い大会でした。とかち・帯広FCは、大会実行委員会の推薦も含めて今回で10年連続の出場となり、毎回大きな収穫を得ています。

我々十勝トレセンU12のメンバーは、11月下旬までは屋外でのトレーニングを継続的に続けてきましたが、その後は室内でのトレーニングとなり、広いピッチでのフィジカル面やコンタクトプレー、また11人制サッカーでのシステムやポジションなど、不安と期待が入り混じる中での大会参加となりました。

大会の結果は、全国の強豪32チームの中で第12位という成績でしたが、この時期に全国のトップレベルのチームと交流できたことに大きな意義があります。レベルの高いチームとの試合を通し、ファーストタッチの質、シュートやパスの精度、判断のスピード、アプローチの速さなどの課題も明らかになりました。

また、相手との駆け引きやいわゆるサッカーに関わるするさや戦術観などもサッカーどころの選手との差を感じました。十勝や北海道の中ではあの程度通用するプレーも、全国のレベルではなかなか通じないことを体験できたことは、将来のある選手たちにとっては大きな財産となったはずです。

我々十勝トレセンU12が、近年課題として取り組んできた個の育成ですが、厳しい試合の中でも、攻撃では自信を持ってドリブルでしかけ突破をねらう選手、守備では落ち着いて身体を入れてボールを奪うという選手が見られるようになってきたのは大きな収穫です。十勝全体のレベルが徐々に上がり、ここ数年の取り組みの成果が確実に表れてきたものと思います。

なお、今回の遠征も、多くの関係者の方々のご支援を受けたいへん充実した遠征となりました。本当にありがとうございました。少年トレセンの最終段階として、この時期に全国の強豪チームと多くの試合ができるこの大会は、我々にとって本当に大きな財産となっています。ここで得た経験、熱い思いを選手、スタッフ忘れることなく、次のステップに活かしてほしいと願っています。

終わりにになりましたが、この遠征に際しまして、十勝地区サッカー協会はじめ、十勝少年サッカー連盟、各単位少年団関係者の皆様方、そして保護者の皆様には、多大なご支援とご協力をいただき心より感謝申し上げます。今後とも、十勝地区のレベルが高まるようスタッフ一同努力いたしますので、今まで以上のご指導、ご協力をお願いいたします。

簡単ではありますが、イレブンの戦いの様子をまとめましたのでお読みください。

12月22日(土)

☆予選リーグ第1試合

とがち・帯広FCー新座片山FC少年団(埼玉県)

蛇塚グラウンド南 10:40キックオフ

いよいよ3日間の戦いが始まる。予選リーグ初戦の相手は全国大会常連の新座片山だ。今年のチームもメンバー全員がよく走り、実にアグレッシブなサッカーをしてきた。ピッチは早朝からの雨の影響で、芝には若干水が浮く悪コンディションではあったが、とがちの選手のモチベーションは非常に高かった。

開始5分、とがちがこの試合最初のシュートを打つものの、DFからボランチへのパスがなかなか収まらず攻撃が続かない時間帯が続く。やろうとしていること、ねらっていることは悪くはないのだが、ファーストタッチの質など足元の技術が甘く、ボールを失う場面が目につく。その後も右サイドを起点に攻撃をしかけるがシュートが枠に飛ばない。しかし、何度か訪れたピンチにもDF陣が落ち着いて対応し0-0で後半を迎える。

2トップを替えてのぞんだ後半5分、ショートパスを3本つなぎ、空いたスペースにタイミングよくトップが抜け出しGKとの1対1を落ち着いて決め、全国大会の初得点をあげる。その後のピンチも体を張った守備で防ぐ。ピンチの多くは、相手に崩されたものではなく、自分たちの判断ミスや技術的なミスから迎えるものだが、これも全て経験。ベンチからは、みんなでしっかりと声をかけ合うように指示が出る。最後まで厳しい試合ではあったが、集中力が途切れることなく1-0でうれしい初勝利。

12月22日(土)

☆予選リーグ第2試合

とがち・帯広FCー白山FCボーイズ(石川県)

蛇塚グラウンド南 14:00キックオフ

この試合、1試合目に出場チャンスのなかった選手を中心に先発メンバーを組む。

試合開始早々、白山は大事にボールをつなぎとがちDFの裏をねらいチャンスを作る。第1試合でも気になってはいたことだが、とがちはボールを持った選手の「前」への意識が足りなく、たとえ前にスペースがあっても、相手のプレッシャーがなくても、ボールを簡単に後ろに下げる場面が目立った。トレーニングではしつこく伝えているわけだが、攻撃の優先順位を理解していないのか、ボールを失うことを恐れているのか。前半中盤からは、お互いあわててしまいすぐにボールを失ってしまう落ち着きのない試合となる。

ハーフタイムでは、ボールを受けたら前を意識すること、DFの場面では相手との駆け引きの中でうまくポジションを取ることを確認したが、後半に入っても無意味にボールを下げる場面が続く。そんな中でも、何度か決定機を作ったわけだが、シュートスキルが低くゴールを奪うことができない。この試合を通じて3~4度決定機はあった。このまま引き分けかと思った終了間際に、やはりボールを下げた場面から相手にボールを奪われ素晴らしいシュートを決められる。惜しい試合を落とす。

あの失点の場面は、ボールにかかわっていた選手だけではなく、このチーム、いや十勝全体の課題といってもいいだろう。勝負という点では、非常に痛い「負け」となってしまったが、次につながる「負け」ととらえ切り替えて2日目にのぞむ。

12月23日(日)

☆予選リーグ第3試合

とかち・帯広FCー奈良スクデッドFC(奈良都)

蛇塚グラウンド南 10:40キックオフ

この試合に勝てば、まだまだ決勝トーナメント進出の可能性が残るということで、ベンチも選手も試合前からモチベーションが高かった。スクデッドはショートパスを多用し、作ったスペースに次から次に選手が飛び込んでくる好チームであった。

前半はボールを支配され、押し込まれる場面が続く。特に、相手のリスタートプレーでの守備のポジショニング(立ち位置)が悪く、簡単に相手の足元にボールを入れられてしまう。何度かゴール前でチャンスを作られてしまうが、GKを中心に体を張ったプレーでしのぐ。やや押し気味の11分、GKからの精度の高いロングボールから右サイドを起点にチャンスを作り先制点を奪う。終了間際に、不用意なファールからFKのピンチを迎えるがバーに救われる。

後半は、徐々に連動した守備が見られるようになってきた。また、前日の課題であった安易にボールを下げてしまうという場面も少なくなり、ボランチにボールが収まったところからチャンスを作れるようになってきた。何度か訪れた決定機で追加点を奪えることはできなかったものの1-0で勝利。惜しくも得失点差で2位通過となってしまったわけだが、2位グループのチームもレベルの高いチームばかりだ。まずは1回戦突破を誓う。

12月23日(日)

☆2位トーナメント1回戦

とかち・帯広FCー多摩平JrSC(東京都)

蛇塚グラウンド南 14:40キックオフ

この試合で勝つことの重要性(負けると最終日は1試合のみ)を伝え、ピッチに送り出す。キックオフからしっかりとボールをつなぐとかち。両サイドDFの攻撃参加もあり、この大会で一番いいパフォーマンスを見せる。ボールを支配し続ける4分、25mのFKを見事に決め先取点を奪う。この試合では、攻守にわたり駆け引きをしながらのプレーも随所に見られた。何度か訪れたピンチにも、落ち着いたカバーリングで対応し、また積極的なインターセプトでボールを奪う姿も見られた。

ハーフタイム、1:1で負けていないことがいい試合につながっていること、ピンチのときはみんなで守ること、ボールが奪われた瞬間にDFが始まることを確認する。

後半に入ってもとかちペースで試合が進む。1分、パスをつなぎながら人数をかけて攻撃をしかけ追加点を奪う。が、その直後にクリアボールを拾われシュートを決められる。ベンチからは、こわがらないで押し上げろの声がかかる。ややセカンドボールが拾えなくなり嫌な時間帯が続く8分、今度は35mのFKを決め再び2点差とする。更に12分、コーナーのチャンスから豪快にヘッドで決める。交代で入るメンバーも実に伸び伸びとプレーを続ける。前線からの献身的な守備、声を掛け合いながらのカバーリング、まだまだミスはあるもののねらいのあるパスが見られるようになってきた。その後もチャンスを作り4-1で勝利。この大会通じてのベストゲームであった。

この勝利により、最終日は2試合できることとなる。

12月24日(日)

☆2位トーナメント準決勝

とかち・帯広FCーアストロンFC(福島県)

J-STEP西 9:50キックオフ

身体能力が高いメンバーがそろそろアストロンに押し込まれる場面が続くとかちだが、徐々に相手DFの裏をねらったパスが見られるようになってきた。しかし、大会3日目ということでメンバーの動きがやや重いのが気になる。攻守の切り替えやラインの押し上げが遅いため、セカンドボールを拾われる場面が続く。9分、相手の強烈なミドルシュートはバーに救われる。その後何度かチャンスを作るものの人数をかけた攻撃ができないために決定機まで至らない。

ハーフタイム、前半は1:1の場面で負けていたこと、勝つため、そして楽しむためにはもっと一人一人がしっかりとやるしかないと確認する。

後半に入ったメンバーは、前半よりもアグレッシブに動こうとするわけだが、ちょっとしたところが雑なためになかなかボールがつかない。特に、ボールを奪った後のパスミスが目立つ。また、周りを見ていないのでプレーの選択肢が広がらない。だから相手選手によまれる。試合の中でどんどん課題が見つかる。そんな中でも体を張ったプレーから必死にボールを奪い、相手ゴールに向かおうとするメンバーの姿も見られた。

後半も両チームともに決定機を作れず0-0でPK戦となるが惜しくも敗れる。

12月24日(日)

☆2位トーナメント3位決定戦

とかち・帯広FCー長野県選抜(長野県)

J-STEP西 12:20キックオフ

この大会の最終戦は長野県選抜となった。これまで県選抜のチームと試合をする機会はほとんどなかったので非常に楽しみな試合となった。

試合開始早々、相手パスをインターセプトしそのまま右サイドをドリブルで持ち込み、すばらしいゴールを決める。見事なシュートを決めた選手は、これまではどちらかというところでもゴール前でパスを選択することが多かったわけだが、試合を通じてゴールへの意識が芽生えてきた成長を感じるシーンであった。その後も前からの積極的な守備からボールを奪う場面が見られる。相手チームも、前への意識が非常に高く、攻守の切り替えも速いすばらしいチームであった。押し気味で試合を進めるとかちは、その後もサイド攻撃やドリブルのしかけからチャンスを作るわけだが、なかなか追加点を奪うことができない。

ハーフタイム、とても内容のあるいい試合であること、後半もこのリズムで試合を続けること、勝つためには追加点が必要なので更にゴールを目指すことを確認する。

後半開始早々、コントロールがやや大きくなったところを奪われ同点に追いつかれる。その後やや慌てる場面も見られたが最後まであきらめないプレーを続ける。ベンチからは何度も「見ることを要求する。18分、この大会けがのためにサポート役として奮闘してくれていた2人がピッチに立つと、ベンチからは大きな拍手が沸き起こる。チームとしての成長とメンバーのまとまりを感じた場面でもあった。試合はこのまま1-1でPK戦となる。惜しくも敗れるものの県選抜相手に内容のある試合を展開する。

大会を振り返って

選手20名の成長を感じる3日間となりました。

今年のメンバーは、澁谷コーチを中心とする指導スタッフが、4年生の秋から継続したトレーニングを続け、日韓ジュニアなどの大会や試合を通じ、徐々にレベルアップをしてきました。チームというまとまりはもちろん、個という視点で見ても、高いレベルの中でも十分に通用した選手もいました。また、これからが楽しみな選手もたくさんいました。まさに将来の可能性を感じる3日間となりました。

さて、3日間の大会を通して、今回もたくさんのことを学ぶことができました。

いくつか課題があるわけですが、十勝の選手は相手の速いプレッシャーに慌ててしまいボールを失う場面が多く見られました。トップレベルのチームは、たとえ激しいプレッシャーを受けても簡単にはボールを失わず、相手の立ち位置を確認してファーストタッチの場所を決めていました。そして常によく見ていました。

また、相手との駆け引きやいわゆるサッカーに関わるするさや戦術観なども、サッカーどころの選手との差を感じました。相手選手との間合いや状況を考えて、しかけるのか、ターンをするのか、パスを出すのかなど自分たちで考え判断をしている場面を多く見かけました。

十勝の選手ですが、キックの精度などの課題もたくさんあるわけですが、数年前に比べると1対1でのひ弱さを感じなくなってきました。厳しい試合の中でも、攻撃では自信を持ってドリブルでしかけ突破をねらう選手、守備では落ち着いて身体を入れてボールを奪うという選手が見られるようになってきました。これらは、トレセン活動のみならず、各チームでの日常のトレーニングの充実が地区のレベルアップにつながり、そうした選手を育ててきたものと思われま

今後、これらの課題を克服するためには、今まで以上に地区のレベルアップを目指し、常にハイプレッシャーの中で戦い続ける環境を作っていく必要があります。また、指導者のコーチングについても共通認識を図っていく必要があります。今まで以上に、選手たち自身に考えさせる力、判断させる力を身につけさせなければなりません。

ここ数年、多くの関係者の方々のご尽力で、全国のトップレベルのチームと交流できるチャンスをいただいています。やはり、この時期に良い経験ができることは、何よりの財産となります。日頃のトレーニング方法を更に工夫し、努力していけば、全国との差はこれからも縮まるはずで

そして、今後も十勝地区全体の底上げをし、レベルを上げていくことはもちろんですが、トレセン活動の大きなねらいが個の育成であることを忘れずに継続的に取り組んでいきます。

参加したメンバーが、新たな課題と次なる目標を持ってそれぞれの道に進み、十勝サッカーのレベルを上げてくれることを期待しています。

選手の皆さん、そしてベンチを支えてくれたスタッフの皆さんご苦労さまでした。

選手20名へのコメント

○成果 ●課題

- 1番 ○キックの精度が上がってきた。また、よく声をだしチームを盛り上げた。
●ハイボールに対する安定したキャッチングと的確なポジショニング。
- 2番 ○けがは残念だったが、チームキャプテンとしてみんなを支え続けたのは立派。
- 3番 ○見ながらのプレーがよかった。粘り強いプレーで何度もピンチを防いだ。
●仲間との距離やボールをもらうための角度などポジションの取り方が課題。
- 4番 ○1対1の対人プレーに強さを感じた。縦へのスピードは十分に通用した。
●足元のテクニック。ボールを奪ったあとの積極的な攻撃参加が見たかった。
- 5番 ○ボランチとして攻守にわたりチームの核として活躍。運動量も豊富だった。
●ボールコントロールの技術と競り合いの中でのパスの精度を高めること。
- 6番 ○存在感は十分にあった。長野県選抜での先取点は成長を感じた見事なゴール。
●オフの動きや準備。キックの精度と更にゴールを目指す意識を持つこと。
- 7番 ○けがは残念だったが、最終戦PK戦での気持ちの入ったキックは見事だった。
- 8番 ○ドリブルのテクニック。相手のドリブル突破に対する身体を張った守備。
●更なる運動量と相手の2人目のディフェンスを意識したドリブルが課題。
- 9番 ○ボールを失わない技術。献身的な前からの守備。ゴールを目指す姿がよかった。
●自分の判断の中から、相手との駆け引きを楽しめる選手に育ててほしい。
- 10番 ○攻守にわたり献身的にプレーをし続けた。右サイドの突破は破壊力があつた。
●奪ったボールを失わない技術。更に緩急をつけたドリブル。シュートスキル。
- 11番 ○パワーのあるキックは魅力十分。多摩平戦でのフリーキックはすばらしかった。
●周りを見て次のプレーの選択肢を増やすこと。ファーストタッチの質。
- 12番 ○ねらいすました積極的なインターセプトや身体の入れ方は十分に通用した。
●周りとの関わり。より積極的に人やボールに関わるプレーを目指してほしい。
- 13番 ○ゲームキャプテン。的確なポジショニングとカバーリングでピンチを防ぐ。
●より正確なキックの精度。オフの動きと相手の位置を考えたポジショニング。
- 14番 ○浮き球の処理と身体の使い方。ファーストタッチのコントロールは良かった。
●1対1の強さ。ボールを持っている相手選手との距離。攻守の切り替え。
- 15番 ○ゴールを目指す姿勢がよかった。瞬間的なスピードは十分に通用した。
●ファーストタッチの質。ボールをどこに運ぶか。どちらも見るのが大切。
- 16番 ○サイドからのドリブル突破や裏への飛び出しは魅了十分。攻撃の起点となった。
●ボールがないときのポジショニングとシュートスキル。ゴール前での落ち着き。
- 17番 ○3日間で最も成長を感じたプレーヤー。攻守の中心となってプレーを続けた。
●ゴールを目指す大胆さ。判断力（どんなプレーを選択するのか）が課題。
- 18番 ○左サイドからのドリブル突破でチャンスを作る。1対1の競り合いも強かった。
●守備の際のポジションの取り方。キック（シュート、パス）の精度。
- 19番 ○細かなボールタッチや変化のあるドリブル。ボールを奪われたあとの守備。
●ゴールへの意識を高く。失敗を恐れずに自分の持ち味を更に生かしてほしい。
- 20番 ○1対1の場面でも恐れず身体を張ってピンチを防ぐ。キャッチングも安定。
●GKからのパスが攻撃の第1歩であることを常に考えてプレーしよう。